

複式授業について

東田明治

複式授業については、全国的にいろいろ研究されているようですが、教職生活のほとんどを複式校で過ごしてきた私の複式授業の考え方を紹介します。参考にしてください。

1. 「ひとり勉強」ができる子を育てる

複式授業では、どうしても「ひとり勉強」の時間が必要となると考えています。

① 課題設定の工夫

- ・10～15分ぐらいのひとり勉強の時間を設定する。
- ・そのためには、解決や作業に**10分程度要する課題を提示**する必要がある。
- ・複数の子供がいるわけですから、早く課題解決ができた子をどうするか、課題解決が困難な子にどう援助するか考えておく必要がある。

ひとり勉強に取り組むことができる子を育てるためには、次のような点が必要となります。

② 学習訓練の必要性

- ・一定の**訓練**が必要。(我慢強さも含めて)

③ 学習方法の一定のパターン化

- ・主要教科では、**学習方法の一定のパターン化**も必要と言われている。

<私の場合>

- 算数…課題提示→ひとり勉強(課題解決)→発表→整理する・まとめる 授業形態のパターン化
- 国語…課題提示→ひとり勉強(課題解決)→発表→深める・まとめる 授業形態のパターン化
 - ・文学作品を読む場合の課題の与え方も一定のパターン化
 - ・説明文の場合の課題の与え方も一定のパターン化

※ ひとり勉強の意義

私は、本来ひとり勉強は、複式だから仕方なしに取り入れる授業形態ではないと思っています。むしろ、多人数の学級こそひとり勉強を取り入れる必要があると考えています。

- ・自分なりに課題解決に向かうことによって、**学級の全員が思考力を鍛える**ことができる。
- ・課題解決の要は、既習の学習事項を使って解決方法を考えることにあるので、**過去の学習と現在の課題とつなげる**ことができる。(特に算数では、前学年までにどのような段階まで学習しているのか把握しておくことが大切。私の場合ほとんどの子が忘れていたであろうということを前提に既習内容を復習しつつ現在の新しい課題に取り組ませることを最も大切にしてきた。)
- ・自分なりに課題解決に努めているので、次の段階のみんな学習に参加しやすくなる。友達の解決方法を興味を持って聞くことができる。
- ・学級の全員が一斉に課題解決に立ち向かうので、教師に時間的な余裕ができ、机間巡視が可能となる。解決に困っている子にはヒントを与えたり、よくできる子にはさらに質の高い解決方法を示唆することができる。

子供たちがひとり勉強に慣れ、学習が進んでくると、

- ・我慢強さ・誠実さ・探究心なども育てることができる。
- ・論理的思考力・多面的な思考力・発想の転換力なども育てることができる。

2. ひとり学習を生かした学習形態の組み立て

ひとり学習を生かした学習形態について次のような2つの形態をとってきました。

同時進行型 (例…算数)

	A学年	直間	B学年	
みんな	1. 課題提示			
ひとり	2. 課題解決		1. 課題提示	みんな
			2. 課題解決	ひとり
		机間巡視		
みんな	3. 発表する (学習係が司会)		3. 発表する (学習係が司会)	みんな
		内容により 随時直接指導		
	4. まとめる		4. まとめる	

同時進行型は主に算数で採用してきました。

この形態では、学習係の一定の訓練が必要となりますが、そう難しくなく、どちらかと言えば機械的にでも司会できます。

- ・司会に当たった子の学習意欲は大いに向上します。(一定の期間同じ子に司会させる)

- ・子供の**論理的な発表力**が飛躍的に向上します。(資料1参照 末尾に掲載)

- ・算数では**論理性の育成**を指導の中心としました。つまり、深める学習より論理的な考え方、論理的な説明の仕方に指導の中心を置きました。

前半後半型 (例…国語)

	A学年	直間	B学年	
みんな	1. 課題提示		3. 発表する	みんな
ひとり	2. 課題解決		前時後半のひとり勉強の成果を発表 (学習係が一部司会)	
			4. まとめる	みんな又はひとり
みんな	3. 発表する		1. 課題提示	みんな
			2. 課題解決	ひとり
みんな又はひとり	4. まとめる			

左は国語の場合の学習形態です。国語では学習内容を深めるのにどうしても**直接指導の時間を一定のかたまりでとる**必要があります。そこで、前半後半型の学習形態を生みだしたわけです。

国語で一番苦労したのは、**10～15分ぐらい解決に要する学習課題をどう設定するか**という点でした。私なりにですが、この問題を解決するのに10数年かかりました。

次に苦労したのは、子供が発表した後、**どう学習内容を深めるか**という点でした。つまり、**深めるための発問**(資料2参照)をどのように準備しておくかということです。多くの先生方の授業を見せていただいて解決の糸口を見出したのは、退職の年のことでした。退職してからもサークルの先生方と研究を続けています。その成果を私

のホームページで少しずつ紹介していますのでご覧いただきご意見をちょうだいしたいと願っています。

資料1 「論理的な発表力」 1年算数の例

課題

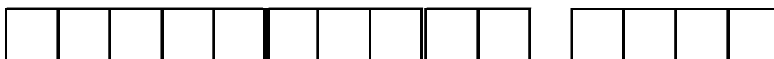
8 + 6 のけいさんのしかたを タイルをつかってかんがえましょう。
準備物 タイル はさみ のり



ひとり勉強

発表

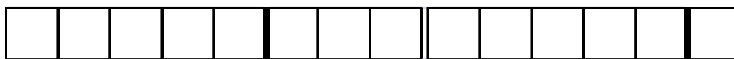
① 8の補数を使って解決



児童A 「説明します。8は あと2で 10です。6の タイルを はさみを つかって 2と4に きりました。8と2で 10です。4 のこっているのこたえは 14です。質問や意見がありませんか。」

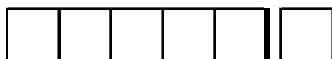
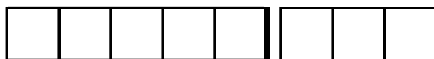
② 6の補数を使って解決 説明は省略

③ 数えたしで解決



児童B 「説明します。8と6を がっちゃんこして かぞえました。8・9・10・11・12・13・14。こたえは 14です。質問や意見はありませんか。」(1・2・……・14と数える子もいる)

④ 5・2進法で解決



児童C 「説明します。8を5と3に はさみで きって わけました。次に 6も 5と1に きりました。5と5で 10 3と1で4 なので こたえは 14になりました。質問や意見はありませんか。」

まとめ

どのやり方も 正しいことを確認。「これから勉強を進めていくのに どのやり方が いいかな。」というような発問で、大きな数をもとにした補数を使って足し算をしていくことを確認する。

操作活動が非常に重要

- ・ どの子も課題解決に取り組みやすい。
- ・ 発表の根拠となる。
- ・ どの子も複数の解答方法を見つけることが可能となる。
- ・ **操作の順序が思考の順序**
- ・ **操作の順序どおりに発表すると、発表しやすい(且つ、論理的)**

3年生の例

2位数×2位数の練習問題の発表

		3	7
	×	4	8
		5	
		2	9
		2	
1	4	8	
1	7	7	6

「説明します。

最初に 37×8 をしました。

$8 \cdot 7$ 56で 5をくりあがります。

$8 \cdot 3$ 24で、繰り上がっている 5をたして 29です。

296になりました。

次に 37×40 を しました。

$4 \cdot 7$ 28で 2を繰り上がります。

$4 \cdot 3$ 12で 繰り上がっている2を足して1480

296と1480を足して（1段目と2段目を足して）1776です。質問や意見はありませんか。」

※ 足し算は、既習事項であるうえに、3年生ともなると十分習熟していると考えられるので、詳しい説明は省略させる。

このように、2位数×2位数の掛け算でも、答えを求めるには、実にたくさんの思考過程を経ていることが分かります。ですから、初めて習った時は戸惑うのは当たり前です。繰り返し繰り返し練習することによって、自動的に計算する回路が脳の中にできるのです。

重要な計算は、上のように黒板の前に行って、説明させると身につけやすい。計算方法を繰り返し説明したり、友達の発表を聞いたりすることによって、脳の中に太い回路ができるからだと考えている。

イメージを深めるための発問の工夫

東田明治

◇ 「場面毎に読む」段階の一時間の学習の流れ

- ① 場面をイメージ化するための学習課題に取り組む
(情報を取り出し、解釈する段階)
- ② 発表し、深める・広げる・共有する (教師の出番)
(場面のイメージを共有したり、熟考したりする段階)
- ③ 場面をまとめる
(熟考・論述の段階)

一、子どもが長い文を取り出してきた場合、その文の内、特に「**中心となる言葉**」はどれか問う。さらに、「**なぜその言葉なのか**」理由を尋ねる。同時に特定の子の課題とせず、全員の課題とすることが大切。

二、イメージを深める指導に**文法指導**を生かす

1. 副詞や副詞句など**動詞を修飾する言葉**に注目させ、その意味を考えさせる。

〈例〉 おそるおそる歩きました。(三年とうげ)

女の人が、とぶようにして、かいだんからかけおりてきました。(だから わるい)

- ① このような場合、これらの修飾語がある場合とない場合でイメージがどう違うか比べさせるのが効果的。

女の人が、とぶようにして、かいだんからかけおりてきました。

女の人が、かいだんからかけおりてきました。

- ② あるいは、他の言葉(同意語的な)と置き換えて、イメージの違いを比べてみると、言葉の意味が分かりやすい。

おそるおそる歩きました。 ゆっくりあるきました。 ちゅういしてあるきました。

女の人が、とぶようにして、かいだんからかけおりてきました。

女の人が、いそいで、かいだんからかけおりてきました。

2. **複合語**など意味を強めていることばに着目して発問する。

〈例〉 はげしくほえたてている。ほえる+たてる (だから わるい)

さきみだれる さく+みだれる (三年とうげ)

- ※ これらの場合も、一語だけの場合と比べるとどう感じが違うか考えさせると効果的。

3. その他

・主述関係 ・接続詞 ・指示語 ・文末表現 などを基にイメージを深めさせる。

三、大事な言葉を子どもの**体験からイメージ化**させる発問

〈例〉 やさしい…「**どんなときやさしい**と思いますか。」(白いぼうし)

四、大事な語句と同じ場面内の他の語句と**関連付ける**

五、大事な語句と前の場面(語句)と**関連付ける**。

六、**繰り返し**による強調表現に注目させる

七、**対比**による強調表現に注目させる

八、その他